震災に負けない！いざ復興へ！

# 過去の災害経験活かし、一致団結！

平成２４年の豪雨災害から４年。立て続けに起きた災害でも市民は前を向き一日一日を過ごしました。支援の輪は市内から市外、全国に広がり、災害直後から多くの救援物資、県外からの職員派遣など各地からご支援をいただきました。

(5)

(1)

(6)

(3)

(7)　(4)　(2)

(1)避難所の一の宮小学校の子どもたちが「しえんありがとうまけんばい阿蘇」と支援者にメッセージ　(2)阿蘇市地域婦人会が赤十字奉仕団として、炊き出し支援。学校の先生やボランティアも協力し食事を提供した　(3) 25 日に一部を除き保育園・幼稚園が再開。山田保育園では久しぶりの給食に「美味しい」と喜んだ　(4)多くの救援物資が拠点である旧中通小学校体育館に続々と集まった　(5)地震直後から多くの地区で断水が発生。役犬原のポケットパーク湧水には多くの市民が水を汲みに駆けつけた　(6)避難者を元気づけようと大分県在住のマジシャン幸多さんが、マジックショーを披露。「少しでも元気になってもらえたら嬉しい」と幸多さん。小学生も「楽しい時間を過ごせた」と笑顔　(7)子どもを元気づけようと日田市の団体が一の宮小学校の子どもたちにミニ四駆を贈った

(13)

(10)

(8)

(9)

(15)

(14)

(16)

(12)

(11)

(8)(9)阿蘇ネイチャーランドがアクティビティ体験会を開き、子どもたちがマウンテンバイクなどで汗を流した (10) 整体師でタレントの楽しんごさんが支援にかけつけ、避難者の疲れを癒した　(11) 災害ごみの仮置場には多くのごみが持ち込まれた　(12) 市内全域で停電が発生、発電機車が全国各地から駆けつけ復旧作業に当たった　(13) 門前町商店街では有志が救援物資や豚汁などの炊き出しを提供。「電気が復旧しない中、温かい食べ物は嬉しい」と市民　(14) 全国各地の駐屯地から 6,000 人を超える自衛隊が集結。炊き出しや給水支援、災害復旧などに尽力 (15) 市内で喫茶店を営む林夫妻が「コーヒーを飲んでリラックスして」とコーヒーを提供。「皆さんに少しでも役に立てたら」とご主人　(16)4 月 26 日にボランティアセンターを開設。「阿蘇に思い入れがある。できる限り支援したい」と宮崎県から来た男性。5 月 3 日までに延べ 678 人が家屋内の片付けなどに汗を流した